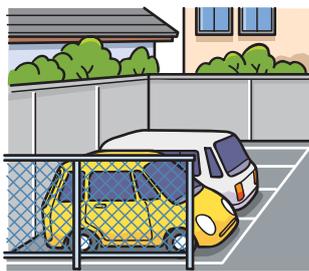


6

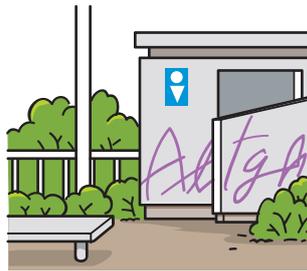
どこが安全？ どこが危険？

犯罪が起きやすい場所

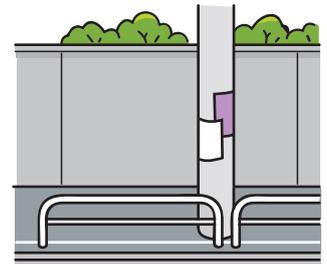
犯罪が起きやすい場所は、不審者が入っても怪しまれない施設や建物で、子どもが一人きりになっても周囲の大人の目につかない死角になる場所です。また落書きや廃品が散乱しているような場所も危険です。子どもたちが犯罪に遭遇する割合の一番高い場所が駐車場や駐輪場です。近年では駐車場の防犯対策の必要性が叫ばれ、多くの駐車場では防犯カメラや照明が取り付けられています。しかし、子どもはできるだけ近づかないことが無難です。道路上の犯罪も増加しています。声かけに始まり、ひったくりや通り魔、連れ去りなどの多くの犯罪は道路上で発生しています。このように子どもの遊び場でも路上駐車や落書きの多い公園、木や建物が近く見通しの悪い公園は犯罪が起きやすいため注意が必要です。



侵入が容易



周囲の関心が低い



死角がある

対応策

環境改善

- ・地域での清掃活動
- ・地域で改善できないものは行政に掛け合う

危険箇所の共通理解

- ・安全マップ作成などを通して子ども・保護者・学校・地域での情報共有

パトロール活動

- ・危険箇所の点検と重点的なパトロール

地域の危険箇所を確認，情報共有し，活動に生かしていこう

- 規準表 <12a> 自分の住んでいる地域の特性を把握している。
 <23b> 建物の種類や特性に応じた対策を理解し説明できる。
 <24b> 地域の地理などの特性を理解し、防犯のポイントが説明できる。
- ねらい ③地域において犯罪が起こりやすい場所を具体的に把握している。
 ④地域の危険な場所と安全な場所を具体的に把握している。
 ③エレベーターの安全な乗り方について説明できる。
 ③駐車場や空き地・資材置き場などでの安全確保について説明できる。
 ④公園やその他の遊び場で注意するポイントについて具体的に指導できる。
 ⑥「危険な道」について具体的に説明できる。

エレベーターや公衆トイレの危険性

エレベーターや公衆トイレも犯罪の多い場所です。最近では日常的にエレベーターを使用する子どもも増えています。エレベーターの中で子どもが被害に遭う犯罪の手口は、扉が閉まる直前にエレベーターに乗り込み、子どもの口をふさいで抱きつき、わいせつ行為をするというものが多く見られます。防犯のために、昼間でも子どもだけでエレベーターに乗せることは避けた方がよいでしょう。やむを得ずに子どもだけで乗せる場合には、乗り込む前に十分に周囲の安全を確認するようにして、知らない人と二人だけにならないように注意し、二人きりになったらすぐに降りるようにします。また万が一に備えて日頃から各階ボタンの近くに壁を背にして乗るような習慣をつけておくとよいでしょう。



またトイレは世界的にみても犯罪の多い場所で、防犯のために公衆トイレを設置しない国もあるほどです。トイレは密室になりやすく、助けを求めにくい場所です。これまでも子どもが公衆トイレに連れ込まれて起こる犯罪が多く発生しています。保護者は必ずトイレへ一緒についていき、個室の前で待つようにします。また子どもだけにいる時には友だちと一緒にいき、決して一人で行かないような習慣をつけさせましょう。

ビデオ教材 (ビデオ→ どこが安全? どこが危険?)

※関連するビデオを見て理解を深めてみましょう。

■つかんでおこう!

多次元防犯指導支援システムなどを利用し、自分の地域ではどのような場所に注意すべきか確認してみましょう。

Column

危険な場所で被害にあったら

日常生活のなかで、子どもたちは危険な場所を通らなければいけない状況におかれることもあります。仮にそこに近づいて、被害に遭ってしまった場合でも、子どもを責めず、話をていねいに聞いてあげるようにしましょう。